

「夕歩道」とは
夕張川と流域住民をつなぐ
川の道です

夕歩道

ゆうばり小

- ◆日時：平成25年7月17日(水) 9:15~13:50
- ◆場所：夕張川支流ホロカクルキ川

ゆうばり小の児童は、自分の興味に合わせて、「石」、「魚」、「植物」、「水質」に分かれて学習をしました。石の学習では、石炭の話から夕張がかつては産炭地として栄えたこと、夕張川には泥岩が多く、この石が風化し水に溶けるため川が濁っていること等を学びました。最後に川流れをしました。この時期にしては水温が低く、少し寒かったようです。



水辺の植物の学習



川流れ体験



河原の石拾い&観察

南幌小

- ◆日時：平成25年9月11日(水) 8:50~11:50
- ◆場所：夕張川南幌町河川敷ゴルフ場上流端

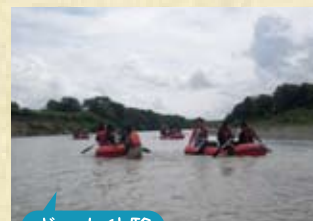
増水のため、清幌床止から南幌町の河川敷ゴルフ場上流端に場所を移して実施された南幌小の川の学習は、川歩き、魚採り、ボート体験、川流れが行われました。河岸掘削して出来上がった広い河原は、流域でも珍しく、普段からNPO等が環境学習に利用している場所です。盛りだくさんの内容で、児童から「もっと川にいたい」という声も聞かれました。



夕毛網で魚採り

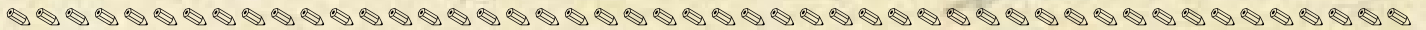


川歩き体験



ボート体験

ゆうばり小学校と南幌小学校の「川の学習」



大型ボート2艇で約3kmの川下りを実施



意見交換の様子

(見学後の意見交換の詳細は、下記HPを参照下さい。)

前回に引き続き「河川利用」をテーマに川下りと意見交換が行われました。ほとんどの委員が川下りをはじめで、ボートから見える川の景色に驚きの声をあげていました。川下りでは、河床低下で中州が固定化している様子、淵尻のサクラマス産卵適地の確認、川の拡幅で河岸保護した場所(シヨウドウツバメ営巣地)等を見ることができました。

- ◆日時／平成25年10月3日(木)
- ◆フィールドワーク／13:20~15:00
- ◆場所：夕張川中流域、長栗大橋~南幌町河川敷ゴルフ場上流端
- ◆意見交換 15:30~16:30
- ◆場所：南幌町ふるさと物産館「ビューロー」会議室

第26回 夕張川流域会議 概要

夕張川・川の指導者養成講座

◆日時：平成25年6月22日(土) 10:00~17:00、23日(日) 10:00~17:00
 ◆場所：雨煙別小学校、夕張川

川の活動には楽しさと危険さの両面があることを理解するための川の指導者養成講座が開かれました。座学では指導者としての心得、川の特徴を知ることの大切さ、川と生物との関わり等を学び、実習では、実際に川を下りながら、川の歩き方、魚の採り方、安全確保や救助方法等を学びました。



雨煙別小学校(コラコーラ環境ハウス)での座学の様子



清幌床止での実習の様子

川の生き物たち

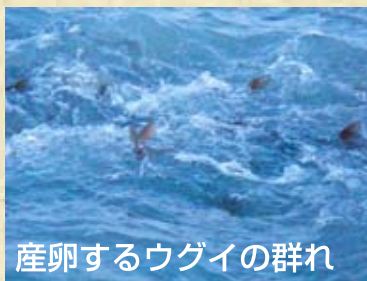
◆日時：6月6日(木)~20日(木)頃まで
 ◆場所：清幌床止(2号床止、3号床止)

清幌床止のマルタウグイ

産卵のため、清幌床止にやってくるマルタウグイを観察しました。今年もたくさんのマルタウグイが遡上してきました。



35cm以上あります。



産卵するウグイの群れ



礫に着いた卵

6月初旬、マルタウグイが産卵するため海から遡上してきます。産卵場所は写真にあるような大きい礫もあるかなり流れのある瀬を好むようで、水温は14℃前後でした。濁って魚の姿はよく見えませんが、この時期は毎日100尾以上が産卵していると思われます。夕張川を代表する魚の一つとっていいかもしれません。

川と生活

夕張川流域にあったマツチ工場

かつて夕張川流域には、川岸に繁茂していたドロヤナギを原木とするマツチの製軸工場がありました(※)。そのマツチ工場の一つ、増岡製軸所が明治31年の大洪水で流失し、34名が溺死してしまふという悲惨な事故がありました。生存者は、わずかに1名で漂流する中、ニレの木にしがみついで助かったと言われています。このときの犠牲者を慰霊する碑が由仁、栗山両町の寺院に残されており、またしがみついで助かった木も「阿野呂一本木」として伝えられています。

※由仁町、栗山町に残る資料によると、工場は数箇所あったようですが、場所は諸説があり特定できません。



方田寺の慰霊碑



大乘寺の慰霊碑



阿野呂の一本木